



# 樹里安だより

ジュリアン

2005年12月  
Vol. 18



## — 安行の名所 (その五) —

### 東沼神社 《川口市差間2-15-45》

とうしょうじんじゃ



天正元年(1573年)以前に浅間神社として創立したと伝えられている。  
明治6年(1873年)差間村村社となる。明治40年(1907年)浅間社・稻荷社・菅原社を合祀し、見沼代用水東縁沿いの高台に鎮座したため東沼神社と改称。別当は興照寺。  
現社殿は昭和62年(1987年)に再建。  
平成15年に、愛子様の御誕生を記念して、地域の協力により赤い大鳥居が建立された。

# 川口市保存樹木を訪ねて その18

## 金剛寺の モミノキ

(川口市安行吉岡1361)

ある秋晴れの日に安行吉岡の金剛寺にお邪魔した。ここは以前(樹里安だよりvol.9)にも保存樹木であるキャラボクを取材したことがある。境内には安行植木の開祖といわれている吉田権之丞のお墓がある。このお寺はかつてこの地を支配した「中田安斎入道安行」が開祖であり、そのまま安行の地名として残っている。

他にもこのお寺には、川口市指定記念物である経塚などがあり、歴史の香りが漂っていた。それにしても100mほどある参道は見事の一言。常緑樹やモミジなどの落葉樹が彩っていた。この参道はいつ来ても期待を裏切らない。春の新緑から冬の日だまりまで素晴らしい表情を見せてくれる。参道の入り口からちょうど半分くらいの場所にお目当てのモミノキがあった。

モミノキは多くの人がそうだと思うが、やはりクリスマスツリーというイメージが強い。都内の若者が集まる繁華街で、様々なクリスマス飾りを付けられライトアップされるモミノキを想像させるだろう。モミ属は、アメリカやヨーロッパ・アジアなど各大陸で40種が分布している。日本では7～8世紀には歴史の舞台に登場している。万葉集の中で「臣」の字があてられオミと呼ばれていたそうである。これと似た木でドイツトウヒという木があるが近年ではヨーロッパやアメリカでもモミの木ではなくこの木をクリスマスツリーとして使われることも多いらしい。理由は安価で生育が早く、増殖が容易だからだそうだ。モミは大気汚染に弱く、寿命は150年～200年程度で短命である。この金剛寺のモミは樹齢何年くらいなのだろう。クリスマスのシンボルツリーの華やかなイメージからは程遠いが、立派な参道を彩る大切な役割を黙々と担っている。もうすぐ冬が来るが、寒さに負けずに緑色の葉を絶やさない姿は、見る人に堅実さと勇気を与えるであろう。



# モミ Abies firma (マツ科モミ属)

- 分布 九州 四国 本州南 中部 岩手県より以南
- 高さ 30~50m 幹周り 3m~4.5mになる常緑針葉高木
- 用途 庭園樹 自然公園に裁植
- 陰樹~陽樹
- 幼時は陰性である。生長してから陽性となる。短命で100年~150年が寿命。  
刈り込みに弱い。深根性で太根。移植は困難。適潤地を好む。粘土層が生長に  
よい。乾燥には強いが煙害、大気汚染に弱い 萌芽力はない。



## 金剛寺の保存樹木

樹種	科名	指定年月日	指定番号	所在	幹周	樹高
キャラボク	イチイ科	H12.9.1	15	安行吉岡1361	1.4m	4.0m
モミ	マツ科	H12.9.1	144	安行吉岡1361	1.85m	22.0m

## ムクゲ “日の丸”

夏の代表的な花であるムクゲ。初夏から次から次へと花を咲かせます。この「日の丸」は日本の国旗から名前がきていますが、お隣の韓国の国花です。「無窮花」を日本式に呼んだ「ムキュウゲ」が語源といわれています。

暑さだけでなく寒さにも強く、全国で植栽でき、お庭の素材として注目を浴びています。切り花にも適していて、茶花としても人気があります。

個性の強い花ですが、花の少ない夏のお庭を鮮やかに彩ってくれるでしょう。



ムクゲ “日の丸” アオイ科 フヨウ属（落葉広葉樹・低木）

- 学名：Hibiscus syriacus
- 原産地：中国
- 樹高：2～5m
- 花期：7～9月、夏の間次から次へと開花
- 特徴：
  - ◆日当たり、水はけのよい場所を好む
  - ◆植え付けは全国で可能
  - ◆水切れと肥料切れに注意
  - ◆植え付けは10月から4月
  - ◆施肥は、庭植えは2～3月、6月、8月頃  
鉢植えなら5～7月
  - ◆日本の国旗のように周囲が白で真ん中が紅色



## 記念樹にふさわしい木とそのいわれ（その5）

### 開店祝い

## マンリョウ

ヤブコウジ科ヤブコウジ属(常緑広葉樹・低木・中庸樹～陰樹)

古来、マンリョウは富の象徴として、センリョウとならんで商家に植えられた。マンリョウはセンリョウの十倍で「万両」。縁起の良いのは名ばかりではなく、四季を通じてつやつやとした緑の葉を保つこと、美しく赤い実がたわわに、しかも晩秋から春までつくことからも、商売がつねに栄えることを象徴しているとして喜ばれる。「大木の根に万両のなつかしく」は高浜虚子の句だが、これは山に自生している自然のままの姿をあらわしている。マンリョウは日陰にも強い。



1. 特徴：開花期6～7月、結実期11～3月。センリョウよりも耐寒性が強い。
2. 植えるときの注意：時期 4～5月  
場所 湿気があり水はけのよい場所を好む。
3. 管理のポイント：萌芽力が弱いのでせん定はしない。鉢植えの場合は、乾燥に特に注意する。

### 《他の木》



カラタチバナ

常緑広葉樹  
低木・中庸樹～陰樹



アオキ

常緑広葉樹  
低木・陰樹・雌雄異株



ツツジ

常緑／落葉広葉樹  
低木・陽樹



アセビ

常緑広葉樹  
低木・中庸樹

参考：(財)日本緑化センター 木を植えよう 記念樹にふさわしい木とそのいわれ



## もみじ狩り

### もみじ狩りの歴史

日本人がもみじ狩りを始めたのは、定かではありませんが7～8世紀あたりからといわれています。「万葉集」「源氏物語」などに登場しているように紅葉を愛する心は、古くからあったようです。平安時代は、貴族たちの遊びとして行われていたそうです。宴を開き、紅葉を見ながら、その美しさを和歌に詠んで勝負する「紅葉合」が流行したそうです。江戸時代になると各地の大名は家来を連れて紅葉の名所を訪れ、庶民ももみじ狩りへ出かけています。8代将軍徳川吉宗は飛鳥山に桜とともにカエデを植樹します。飛鳥山は下谷の正燈寺、品川の海晏寺と並ぶ紅葉の名所だったようです。

明治時代以降はもみじ狩りをメインとした旅行も増えていき、秋の行楽旅行の定番になったそうです。

### もみじとは

もみじ狩りのもみじとは何か。植物学術的に「もみじ」という植物は存在しません。もみじと呼ばれている植物はカエデ科の植物です。木の葉が赤や黄色に色づくことを「紅葉」といいますが古くは「もみち」という言葉で、濁音化され「もみじ」になりました。つまり「もみじ」は紅葉することを指した言葉なのです。カエデ科の植物の紅葉が特に見事なことからカエデ科の植物を「もみじ」と表現するようになったようです。現実に、「イロハかえで」を「イロハもみじ」と呼んだりしています。

### 紅葉のしくみ

秋になって朝晩の気温が低下してくると、木は冬支度のために葉と枝の境に離層を形成します。これができることによって葉は水分や栄養分を得られなくなり、今まで葉を緑色に見せていた葉緑素「クロロフィル」が老化・分解されて、葉が赤くなったり、黄色くなったりします。カエデやナナカマドのように赤くなるのは、葉の中に蓄積された糖分が使われアントシアニンという赤い色素が合成され葉が細胞内に広がるからです。また、イチョウやコナラのように黄色くなるのはもともと葉に含まれていたカロチノイドという黄色い色素が目立ってくるからです。



「紅葉舞い」鈴木春信

## 赤く紅葉する植物

カエデ・ナナカマド・ハゼノキ・ツタウルシ・ヤマウルシ・カキ・ウルシ科の植物  
・サクラ・ナンテン・イワシデ・ニシキギ・ドウダンツツジ・ハナミズキ など

## 黄色く紅葉する植物

ブナ・シラカバ・カツラ・ヘラノキ・クロモジ・ヤマコウバシ・クマシデ・コナラ  
・イチョウ など

### きれいな紅葉の条件

美しく紅葉するには、①日中と夜間の気温差が大きいこと、②太陽の光がよくあたること、③適当な水分があることの3つが重要な条件となります。渓谷や川沿いに紅葉の名所が多いのは3つの条件が揃っているからと言えるでしょう。





## [植物の名称]

**普通名：**世界共通の名前である学名に対し、それぞれの国でその国の言語により、つけられた植物名を普通名といいます。普通名は学名のように一定の規則は作られていません。

**和名：**日本での普通名は和名と呼ばれ、カタカナ表記を行います。

**標準和名：**日本国内でも地域ごとに同じ植物を違う名前で呼ぶことが多く、多くの人々と情報交換するには不便です。そこで、共通して使用できる和名を一つ決めます。それを標準和名といいます。一般的に和名といえば標準和名をさします。

**別名・地方名・俗名：**

標準和名以外の各地でそれぞれにつけられている和名をいいます。

**園芸名：**金鱗や奇想天外などのように、主にサボテン科植物や多肉植物につけられている通称名が園芸名です。園芸的観点からそれらの植物の愛好家が命名したもので、一般に漢字で表記されます。

**学名：**普通名などでは、国や地域が違えば通じないことから、不都合さを解消するために考案されたものが学名です。世界共通の動植物の名前で、国際学会において国際的に決定された命名規約に基づいて命名されラテン語で表記されます。

(例) ヒガンバナ

学名 Lycoris radiata (L' He' rit.) Herb.

普通名・標準和名 ヒガンバナ

別名 マンジュシャゲ、アカオニ、イカリバナ、など



**ジュリアン**  
**樹里安**  
川口緑化センター・道の駅「川口・あんぎょう」

きらり川口  
緑いっぱい

発行日：平成17年12月20日  
発行：財団法人 川口緑化センター  
〒334-0058 川口市安行領家844-2  
TEL 048-296-4021  
ホームページ：<http://www.sainet.or.jp/~jurian/>